

日赤あおもり

No.
407
2022.春夏

 青森県支部
日本赤十字社

日本赤十字社青森県支部 〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号 TEL 017-722-2011 <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>



月明りと赤く染まった「津軽ダム」
撮影・提供：国土交通省 東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所

特集

レッドライトアッププロジェクト2022 ウクライナ人道危機 募金活動

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

青森県支部からのお知らせ

令和4年度 赤十字会員増強・活動資金増収運動 実施中！
赤十字会員の加入、活動資金(会費・寄付金)のご協力をお願いします。

青森県支部公式ソーシャルメディアを開設しました！
青森県内の赤十字関連の情報を中心に発信していきます。
赤十字の輪を広げるために、皆さんフォローをお願いします！



<https://twitter.com/nissekiaomori>
<https://www.facebook.com/nissekiaomori>
https://www.instagram.com/nisseki_aomori/



レッドライトアッププロジェクト2022を実施しました

～プライフーズスタジアムが初参加～

日本赤十字社は、5月8日の「世界赤十字デー」を中心に、苦しみに寄り添う赤十字精神を伝え、自然災害や情勢不安による苦難を共に乗り越えることを願い、全国各地のランドマーク施設が赤十字のシンボルカラーに染まる「レッドライトアッププロジェクト」を行っています。

青森県内では、5月8日に1日限定でレッドライトアップを実施。世界遺産白神山地にある「津軽ダム」(国土交通省 東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所 様)と今年度は新たに、ヴァンラーレ八戸(J3)のホームスタジアムである八戸市多賀多目的運動場「プライフーズスタジアム」(八戸スポーツ・地域振興グループ 様)でライトアップを行い、ダムの巨大な堤体やスタジアム全体が赤十字のシンボルカラーに染まりました。

天候に恵まれた当日は、多くの写真愛好家などが会場を訪れ、幻想的な情景をカメラに収めていました。



今年度新たにプロジェクトに参加した「プライフーズスタジアム」
撮影・提供:八戸スポーツ・地域振興グループ

“平和な世界へ” 思いを届けよう！

～七戸町でウクライナ人道支援 募金コンサートを開催～

七戸町赤十字奉仕団(盛田恵津子委員長)は、ウクライナの人道危機に際し、七戸町(日赤七戸町分区)、同町出身で打楽器奏者の新谷祥子さんの協力を仰ぎ、募金コンサートを開催しました。

4月24日、観光交流センターの交流ホールで行われた「ウクライナ人道支援 募金コンサート 心から心へ Heart to Ukraine」には、新谷さんの演奏や同町連合婦人会による踊りを楽しみにしていた多くの来場者が訪れ、奉仕団と同町商工会女性部の皆さんがウクライナへの募金を呼びかけました。

会場に設けられた特設ステージにはマリンバが置かれ、新谷さんは観客から拍手で迎えられながら、水笛を奏で登場しました。

地元七戸町で作詞作曲することが多いという新谷さんは、オリジナル曲の「グリーン フィールド」をはじめ、カバー曲を交えた全9曲に“平和な世界への思い”を込め、マリンバで弾き歌いました。

寄せられた募金は、総額 209,509 円となり、日本赤十字社を通じて、現地で国際赤十字が行う人道支援活動などの財源として充てられます。

日本赤十字社は、3月2日から「ウクライナ人道危機救援金」を募集しています。皆様からの温かいご支援をよろしくお願いします。

救援金に関するお問い合わせは、事業推進課まで。



マリンバでオリジナル曲を弾き歌う新谷さん



団員の呼びかけに応じて募金する来場者



旧盛岡藩領に伝わる虎丈様を披露する
連合婦人会の皆さん



募金への協力を呼びかける
奉仕団と商工会女性部の皆さん

ウクライナ人道危機で困っている人びとの一助に

～青少年赤十字高校生メンバーが街頭募金活動～

6月11日、12日の2日間、東奥学園高等学校の青少年赤十字部は、サンロード青森(青森市)においてウクライナ人道危機に対する海外救援金の街頭募金活動を行いました。

「苦しんでいる人を救うために、私たちにできることはないか」と同校青少年赤十字部員が相談し、街頭募金を行うことを計画。顧問の協力を仰ぎながら、実施へと漕ぎ付けました。

部員らは会場を訪れた買い物客らに救援金への協力を呼び掛け、2日間で総額270,571円の善意が寄せられたほか、募金した買い物客らから心温まる言葉が贈られました。

6月14日、活動を終えた部員らは青森県支部を訪れ、神事務局長へ募金活動の内容を報告。その後、寄せられた救援金を手渡しました。

部員からは「募金活動を計画し、実施することができ良かった」、「一日も早く、この苦難を乗り越え、もとの生活を取り戻してほしい」という声が寄せられ、この活動を振り返りました。



買い物客らに
救援金の協力を呼び掛ける部員



活動報告後、神事務局長へ寄せられた
救援金を手渡す部員

知識と技術を再確認

～3年ぶりに安全法指導員研修会を開催～

青森県支部は、4月22日、23日の2日間、救急法の講習普及を担う指導員の研修会を開催しました。

参集とオンラインを掛け合わせたハイブリッド方式で開催した研修会では、講師から今年度改訂されたガイドライン2020について、これまでの指導内容との変更点などが説明され、指導員は熱心にメモをとるなど、最新の指導方法について確認しました。

また、4月29日に開催した水上安全法指導員の研修会では、福島県支部の久保事業推進課長が講師を務め、救助技術の確認を中心に行われました。

青森県支部では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと、これからも指導員とともに、県民の皆様が健康で安全な生活を送ることができるよう、安全法講習の普及に努めて参ります。

各種安全法講習会に関するお問い合わせは事業推進課まで。



救急法指導員研修会の様子



救助について講師から説明を受ける水上安全法指導員

4支部合同で救援物資輸送・移動通信訓練を実施

～災害時における通信手段の重要性を再認識～

5月24日、東北管内の4支部(青森県、秋田県、岩手県、宮城県)は、救援物資の輸送と移動通信訓練を実施しました。

訓練では、救援物資の受け渡し場所として指定された岩手県支部へ移動。移動中は車両に搭載された無線機を使用した通信訓練が行われました。

到着後は、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルス様より寄贈された「段ボールベッド」などの救援物資を車両に積み込み、各支部へ輸送しました。

この訓練で青森県支部に輸送した救援物資は、段ボールベッド 50組、段ボールデスク 10組で、災害発生時には市町村などからの要請に基づき避難所などに配布するほか、防災・減災意識の向上のために施設見学や各種イベントなどで展示する予定です。



段ボールベッドなどの救援物資をトラックに積み込むボランティアと支部職員



より良い奉仕団活動を行うために

～赤十字奉仕団基礎研修会を開催～

6月24日、青森県支部は、リンクステーションホール青森(青森市)において、「赤十字奉仕団基礎研修会」を開催しました。

本研修は、赤十字奉仕団の基礎知識を修得することを目的に開催しており、当日は、県内の奉仕団員39名が参加し、赤十字や奉仕団活動などについて理解を深めました。

講義では、指導講師がウクライナ人道危機に対する赤十字の取り組みに触れ、赤十字の基本原則や活動について説明があったほか、防災訓練への参加や救急法の知識・技術の習得など、平時の奉仕団活動について事例が紹介されました。

また、昨年8月に大雨の被害に見舞われた本県下北部風間浦村の分区分事務委員である佐賀克明さんと会場をオンラインで繋ぎ、「令和3年8月大雨災害について」と題した講話が行われました。講話では、被災地のニーズに即した奉仕団活動の在り方と平時における関係機関との連携の重要性について説かれ、県内で起きた災害という事もあり、参加した多くの団員が講師の話しに熱心に耳を傾けていました。

参加した団員からは、「赤十字について理解を深めることができた」、「新聞やテレビで見ていたことがより理解できた」、「奉仕団の活動事例に興味を持って活動があった」などの感想が寄せられました。



研修会の様子

海上自衛隊と連携した洋上救助に貢献

～海上保安部が感謝状を贈呈～

この度、第2管区海上保安部から洋上での急病者救助に貢献したとして、八戸赤十字病院の職員2名に感謝状が贈られました。

5月18日、八戸海上保安部から救助要請があり、同院医師の福田真悟(せったけんご)さんと看護師の羽入祐哉さんが、海上自衛隊の航空機で現場海域に向け急行しました。



感謝状を贈られた医師の福田(左)と看護師の羽入(右)と第2管区海上保安部の職員(中央)

八戸海上保安部に救助要請があったのは、八戸港から東に約780キロ離れた海域で操業していたイカ釣り漁船で、50代の男性甲板員が胸の苦しさと体の丸いれんを訴えているという内容でした。

現場に到着した福田医師らは、迅速かつ適切な応急処置を行い、急病者の容体の安定化に努めました。その後、同病院に搬送された男性は既に回復し、無事退院となりました。

同院は退去にも洋上救助要請に伴う医師、看護師を派遣し急病者の救助にあたったほか、救助要請に基づく任務の遂行ができるよう、第2管区海上保安部などと協力して行われる洋上救助恒熟訓練に参加するなど、洋上救急業務への相互協力体制の充実に努めています。

令和3年度の事業と決算を承認

～一斉改選後、はじめてとなる支部評議員会を開催～

6月13日、青森県支部において第164回支部評議員会を開催しました。

3年ぶりに対面での開催となった評議員会には、県内の赤十字会員の中から選出された評議員や支部・管内施設関係者ら41名が出席し、支部や八戸赤十字病院、県立はまなす医療療育センターにおける令和3年度の事業報告ならびに歳入歳出決算、任期満了に伴う監査委員の選出について審議され、いずれも原案どおり承認されました。

その後、県赤十字血液センターから、令和3年度の血液事業に関する報告が行われました。

青森県支部では、今年度も、県民の皆様からのご協力をいただきながら、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」活動を続けてまいります。引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

災害への備えを考える

～県内小学校で防災教育を実施～

6月28日、青森県支部では十和田市立法興小学校へ職員を派遣し、今年度初めて学校での防災教育を行いました。今回の事業は、十和田市家庭教育応援事業の一環として同校が授業参観の日に合わせて企画したもので、同校の児童、教職員のほか保護者も参加しました。



参加した児童、保護者らについてくもんの防災教育

この日の防災教育では、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひるめるぼうさい」の中から災害を想定したシミュレーションを行いました。

シミュレーションは、災害時、避難所に何を準備して持って行くのかをグループで考えるもので、各グループに配られたスーツケースが置かれた紙に、水や毛布、食料などのイラストカードをはみ出さないように納めるため、相談しながら作業に取り組んでいました。

その後行われた振り返りの時間では、講師から「避難する際に持って行くものは人や家族によって異なり、事前に準備することが大切」、「もし準備できていない場合は、いのちを守ることを最優先にして避難することも重要」であるとの説明がありました。

未来を担う子どもたちは、将来起こりうる自然災害に対して正しい知識を持ち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動をとる必要があります。

青森県支部では、「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の態度目標に基づいた防災教育を通じて、青少年の健康と安全を守り、学校や家庭、地域での防災意識の向上に努めています。

防災教育や青少年赤十字に関するお問い合わせは、総務課 青少年・ボランティア係まで。

活動資金支援者に感謝を込めて ~46個人、法人を表彰~

3月29日、青森県支部は、赤十字活動資金功勞表彰伝達式をホテル青森(青森市)において開催しました。伝達式には、令和3年中に青森県支部へ活動資金を寄せられた個人、法人が出席し、三村自青支部長から、日本赤十字社の表彰規則に基づく金色・銀色有功章、日赤社長感謝状ならびに国の表彰となる厚生労働大臣感謝状、紺綬褒章が一人ひとり手渡されました。

■金色有功章

個人
吉岡三和(青森市)、金子宏夢(弘前市)、秋山潤根(八戸市)、外鐘大(八戸市)、古澤郁子(野辺地町)、中村克美(東北町) 以上6名

法人
第一生命保険株式会社青森支社(青森市)、タムラファーム株式会社(弘前市)、青森つばめプロパン販売株式会社(八戸市)、新成運輸株式会社(十和田市) 以上4社

■銀色有功章

個人
齋藤浩(青森市)、下山美智子(五所川原市)、大向孝志(南郷町) 以上3名

法人
一般社団法人生命保険協会青森県協会(青森市)、株式会社北大音双店(青森市)、株式会社白鳥プロパン(青森市)、有限会社日東自動車(弘前市)、株式会社グランフロント(八戸市)、株式会社自動車ガラス販売八戸(八戸市) 以上6社

■日本赤十字社長感謝状

個人
近藤宏(青森市)、安田修三(弘前市)、氣田福徳(十和田市)、氣田幸了(十和田市)、米田一了(十和田市)、森耕一(むつ市) 以上6名

法人
一般社団法人慈恵会(青森市)、盛運輸株式会社(青森市)、株式会社青南商事(弘前市)、社会福祉法人仲康会(弘前市)、株式会社アクア(八戸市)、株式会社丸昌工



三村支部長と記念写真に納まる受賞者

藤商店(八戸市)、穂積建設工業株式会社(八戸市)、株式会社ミツ電工(五所川原市)、株式会社二組(十和田市)、株式会社日商(十和田市)、株式会社トーリン(むつ市)、株式会社中村建設工業(東北町)、株式会社村下建設工業(新郷町) 以上13社

■厚生労働大臣感謝状

個人
外鐘大(八戸市)、氣田憲二(十和田市)、氣田福徳(十和田市)、米田一了(十和田市)、古澤郁子(野辺地町)、中村克美(東北町) 以上6名

■紺綬褒章

個人
秋山潤根(八戸市)、上平剛史(二戸市) 以上2名

“知る、見る”赤十字

青少年赤十字が創設100年を迎えました!

「青少年赤十字」は、第一次世界大戦のときにカナダやオーストラリアなどの学校の生徒と先生が、戦場で苦しむ日本兵の兵士を救済するために手紙や包帯、慰問品などを赤十字を通じて届けたことがきっかけとなり誕生し、世界中に広まりました。

日本の青少年赤十字活動は1922年に滋賀県で誕生し、赤十字のやさしさや思いやり(人道的価値観)を持った子どもの育成を目的として、今日に至るまで様々な活動が引き継がれ、2022年6月5日に創設から100年を迎えました。

100周年イヤーとなる今年は、創設100周年にまつわる活動を展開しており、青森県支部では、青少年赤十字メンバーによる「寄せ書き旗」や活動写真を集めた「フォトブック」を作成しています。本年秋頃の公開予定です。



創設100周年にまつわる活動は、特設ページをご覧ください。
<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/news/information/jrc100th.html>

赤十字ネットワークニュース

義援金は、災害により生命・財産に大きな被害を受けた方々に、被災者の当面の生活を支えることを目的としています。受け付けた義援金は被災された方々に迅速かつ公平に配分されます。現在受付中の国内災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

●令和2年7月豪雨災害義援金

2022年9月30日(金)まで
日本赤十字社では、国内災害義援金のほか海外救援金を受付しています。
海外救援金は、海外で大規模な災害や紛争などの緊急事態が発生した際に、被災地の赤十字社や日本赤十字社が現地で実施する救援活動・復興支援活動を支えるために設立されます。受付中の海外救援金については、ホームページを確認ください。
<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/kaigai>

献血にご協力くださる皆さまへ

献血のご協力にあたり以下の事項についてご確認くださいませよう、よろしくお願いたします。

1 献血の条件について

献血の種類	全血献血		成分献血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下(献血量の1.2%以内)	
年齢	16~69歳	男性:17~69歳 女性:18~69歳	18~69歳	男性:18~69歳 女性:18~69歳
	ただし、65~69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に献血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男性50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上100回/分以下			
体温	37.5℃未満			

2 献血をお受けできない基準について(一例)

- ①輸血や臓器移植を受けたことがある。
- ②3日以内のピルを伴う歯科治療や薬服(献血可能な薬もごさいませので、お薬名をお知らせください。その場でお調べいたします)。*血圧、高脂血症、高尿酸血症等の生活習慣病の薬は問題ございませんが、体調等を念め、当日の検診区が判断させていただきます。
- ③24時間以内のインフルエンザ予防接種や海外から4週間以内の戻国。

3 献血のお願い

- ①空腹時の献血は体調不良を起こしやすいため、できましたら食事の摂取をお願いします。
- ②献血後の激しい運動やサウナは、危険ですのでお控えください。
- ③献血カードを持参していない方は、運転免許証等の本人確認できる証明書をご用意ください。

献血ヒーロー募集中!

献血の重要性、献血量(約3,000人)、献血のメリット(約14,000人)などを楽しく説明しています。

新型コロナウイルス感染症対策 実施中

献血に関するお問い合わせは、青森県赤十字血液センター 献血推進課まで ☎017-741-1512

献血は“16~69歳まで可能です!”

*65~69歳までの方は、60~64歳の間に献血経験のある方に限ります

献血ルーム ■全血献血/9:30~12:30、13:45~17:00
受付時間 ■成分献血/9:30~11:50、13:45~16:20
※青森献血ルームの受付時間は、全血・成分献血とも9:15~(10月1日から変更)

- 青森献血ルーム ☎0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

